



血栓治療について

厚生労働省が発表した平成二五年の日本人の死因の第一位は「悪性新生物(がん)」で三十六万五千人。

第二位は「心疾患(心筋梗塞や狭心症)」で十九万七千人。

第三位は「肺炎」二十万四千人。

第四位が「脳血管疾

患(脳梗塞や脳出血)」で十一万九千人です。

第二位と第四位の疾患は血管が詰まった

り、破れたりする「血管性疾患」と言われています。

これらを合わせると死亡全体の約二

五%を占めるほど増加して、悪性新生物

とともにその予防や診

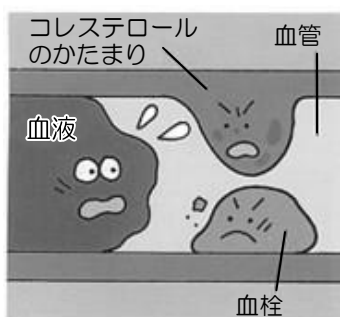
断ならびに治療が重要で

血管性疾患の怖いところは

は、死亡に至らなかつたとしても約四

〇%の方が後遺症として寝

たきりや介護が必要なた



たきりや介護が必要なた

状態に陥ってしまうこと

です。ご本人の生活

が変わり、ご家族に大

きな負担がかかつてしま

う場合も少なくありません。

心筋梗塞や狭心症、脳梗塞や脳出血は高血

圧症や高コレステロー

ル血症、糖尿病などが

危険因子となつていま

た事のある方や、検査の結果危険性があると

判断された方は、再発

や発症の予防のために

血液を固まりにくくす

る「抗血栓薬」を服用

する事があります。

抗血栓薬

抗血栓薬は大きく分

けて二種類あります。

【抗血小板薬】

主に血液の流れの速い

動脈の血栓を作りにく

くするお薬です。動脈

硬化症によるアテロー



での経皮的冠動脈インターベンション(バルーンやステントなど)を実施した方に使われます。

【抗凝固薬】

主に血液の流れの遅い(滞っている)静脈

での血栓を作りにくく

します。心臓では心房

細動、足では深部静脈

血栓症(エコノミークラ

ス症候群)などの方に使われます。どちら

も血栓を作りにくくし、死亡や寝たきり・

麻痺などを防ぐ為には重要なお薬です。

しかし、血液が固まりにくくなるという事は出血がしやすくなつたり、出血が止まりにくくなる危険性もあります。歯の治療や内視

鏡検査を受けるなどの場合はあらかじめ担当の医師にご相談ください。

また一部のお薬には

食べ物の影響を受けるものもありますので注

意が必要です。医療機関で患者様に合ったお

薬の種類と量を処方しておりますので、医師の指示をキチンと守つ

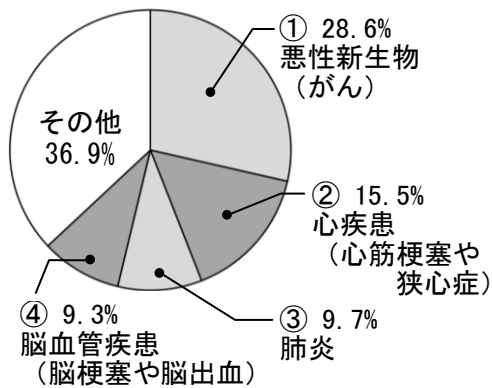
て服用する事が大切です。

お薬についてわからない事やお悩みがあれば気軽に相談ください。

(看護師 遠松美智子)



日本人の死因別グラフ 2013年(平成 25年)



血管性疾患の怖いところは、死亡に至らなかつたとしても約四〇%の方が後遺症として寝